

NJ 素流協 News

平成22年 4月30日
第64号

平成22年 4月30日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

平成22年度 NJ 素流協事業計画案

平成二十二年度の事業開始にあ

たり、NJ素流協事務局は今年度の事業計画を立案いたしました。

来る五月十四日の通常総会に諮り、審議頂くこととなっておりますので、ここに案(一部要約)を掲載いたします。

I 事業の基本方針

依然予断の許せない経済状況が続く中、政府は我が国の森林・林業を早急に再生していくための「森林・林業再生プラン」を作成し、十年後の木材自給率五十%以上を目指して、効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりを進めるとともに、木材の安定供給と利用に必要な体制を構築するとしている。

また、政府は昨年に温室効果ガスの九十年度比二十五%削減を表明しており、この目標の達成のためには二酸化炭素を吸収・固定する森林の整備と木材の利用拡大がますます重要となっている。

「真の国産材時代」を迎えるた

めには、われわれNJ素流協の組合員は、木材を森林から低コストで安定的に供給し、森林の整備を推進するという重要な役割を担っており、「森林・林業再生プラン」の成否の鍵を握っていることを十分に認識し、林業生産活動を積極的に展開することとする。

以上の基本方針に基づき、平成二十二年度は大局的には平成二十一年度の事業展開を継承発展させるが、特に、国産材の安定供給体制の更なる充実、木質系資材の具体的有効活用、伐採から新植、保育作業までの一貫した作業仕組みを念頭において、事業を展開する。

II 事業計画

1 共同販売等に関する事業

この事業は、組合員が生産する素材及びシステム販売協定による素材を、委託を受けて組合が必要先へ安定的に供給することにより

実施する。

平成二十二年度は平成二十一年度の実績量を参考にして、合板用素材については、合板工場の国産材比率の上昇、定時定量の安定的供給の要請に対応するため、前年度実績量の約一・二倍の一三、五〇〇m³増の二二〇,〇〇〇m³(前年実績量比一・〇七倍)を計画する。

また、製材・集成材用、土木用素材については、製材用及び繊維板用等の新たな供給先の開拓を盛り込んだ計画とし、前年度実績量

表 平成22年度事業計画量(案)

区 分		材積 (m ³)	前年度実績量との比較(差)
合板用 素 材	会員生産によるもの	205,000	(+ 12,100)
	システム販売によるもの	15,000	(+ 1,400)
製材・集成材用素材、 土木用素材、他		30,000	(+ 14,300)
合 計		250,000	(+ 27,800)

の約二・〇倍の一四、三〇〇m³増の三〇、〇〇〇m³(前年実績量比一・九一倍)を計画する。

全体では、前年度実績の約一・一倍の二七、八〇〇m³増の二五〇、〇〇〇m³(前年実績量比一・一三倍)を計画する。

2 教育及び情報提供に関する事業

この事業は、組合員等に対し経営管理及び生産技術の向上、情報の提供を図るため実施する。

- (1) 研修会、講習会、見学会の開催
- (2) 組合員の事業経営技術の向上に資するため、経営技術研修会を年二回程度開催する。

この研修会は、組合員の後継者を対象として、パソコン操作、簿記、労働安全、効率的生産技術等の知識や技術の付与を行うものである。

- (2) 組合員の雇用する従業員に対して生産技術の向上を図るため、講習会、工場見学会を年各一〜二回程度開催する。

講習会については、国庫補

助事業等を活用して、搬出路網作設技術等について行う。

(2) 情報提供

- (1) 組合員の事業活動並びに取扱う素材の情報提供・交換のため、「素流協ニュース」及び「立木公売情報」を月一回程度発行する。
- (2) 合法木材、地域材の供給を促進するため、合法木材供給及び県産材認証に関する情報提供を随時行う。
- (3) 労働安全及び生産技術向上のための研修会等に関する情報提供を随時行う。

3 利用拡大等に関する事業

この事業は、組合事業の充実・拡大に資するために実施する。

(1) 素材利用拡大実証事業

この事業は、木質系バイオマスの有効活用の観点から、素材のうち低質材、いわゆるこれまで十分に利用されなかったC・D材について、パルプ用をはじめ熱源用、おが粉用、畜産敷料用など、エネルギーおよびマテリアルの両面へ

の利用拡大を目指すものである。

具体的には、木質系バイオマスの需要側が求める品質や規格、数量等を把握するとともに、需要と供給の円滑な流通システムについての実践的検証を行い、安定的供給体制の構築に努めることとする。

(2) フォレスト再生モデル実証事業

この事業は、植栽未済地の解消を目的として、主伐から植栽・下刈までの低コスト作業の実証を行うものであり、既に設置している箇所の調査と実証のための新たな作業を行う。(五〜十箇所)

(3) 国産材利用拡大推進需給協議会の開催

これは、木材の需要側と供給側が一堂に会し、行政や中央団体の指導を受けながら、国産地域材の利用拡大、安定取引の向上へ向けた協議を行う。(年四回開催)

4 受託事業

この事業は、組合並びに組合員の事業促進に資するため、林業関係団体等からの受託事業を行うことにより実施する。

- ① 岩手県森林整備加速化・林業再生協議会事業
- ② 素材・森林バイオマス資源流通コーディネイト事業(全素協)
- ③ その他当該組合の事業内容に合致する県等補助事業

III 諸会議の開催

1 第七回通常総会

平成二十二年五月十四日(金)盛岡市にて開催する。

2 理事会

共同事業の進捗状況を見据えて、四半期に一回程度開催する。

3 地区懇談会

組合員に対する情報提供、要望収集を進めるため、地区懇談会を県北・県南・県外地区各一回開催する。

◎地区別懇談会を計画しています

- 県南地区 〓 六月十一日(金)釜石市
 - 県北地区 〓 同十六日(水)岩手町
 - 青森地区 〓 同十八日(金)十和田市
- 多数の組合員の皆様の参加をお待ちしております。

一葉

樹木の病害虫(1)

森には膨大な種類の虫、微生物が棲んでおり、これが生物多様性の元となっています。しかし、このうちいくつかの種類が異常発生し、その時だけ病気とか害虫と呼ばれます。このシリーズでは、そんな生物のいくつかを紹介いたします。

はちかみ(蜂噛み)

スギ、ヒノキ、アスナロなどの幹内部に発生する木材の利用上極めて厄介な被害である(写真1)。

カミキリムシの仲間のスギカミキリ(写真2)の食害部に腐朽菌が増殖し、木材組織が変色あるいは腐朽する。このカミキリの幼虫(写真3)が樹皮と木材部表面(あま皮)部分を食害し(写真4)、その部分が変色する。

傷跡や変色部分は、幹の肥大成長に伴って新しい組織に覆われるが(写真5、6)決して消えることとはなく、さらに拡大し、腐朽によつて空洞化し、根元から倒伏する場合もある。

幹の内部に隠れている被害は、樹皮の状況から見分けることは可能である(写真7)が、皮むき丸太ではほとんど不可能である。

被害対策には、次の方法がある。

①カミキリ発生源の除去

被害林には、数本の被害集中木があり、多数の羽化孔(写真8)が見られる。これがスギカミキリの発生源になっているので、まずはこのような木を除去することである。

②被害木の優先間伐

変色部を巻き込んだ被害木は、利用価値が著しく低く、樹木が生長しても被害部分は消えることはない。これらを優先的に除伐・間伐することによって将来の実害を回避することができる。

③樹皮による被害の判定

スギ材を立木あるいは丸太で購入するに当たって、樹皮の形状から内部の被害を判定することは、極めて重要な技術である。



写真1 被害木の縦断面

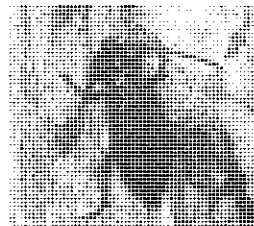


写真2 成虫

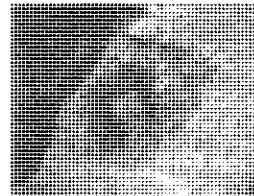


写真3 越冬幼虫

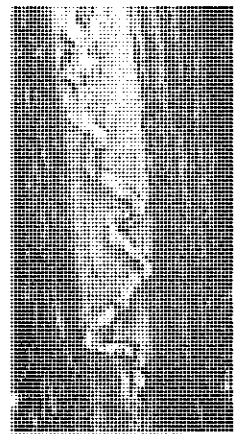


写真4 食害の跡

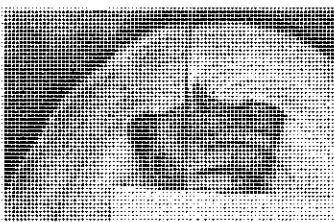


写真5 10年前の被害跡

被害部が幹の内部に巻き込まれている

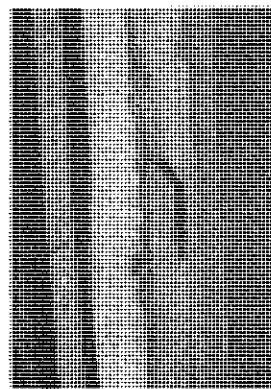


写真6 過去の蛹室

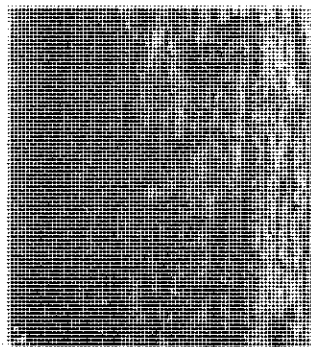


写真7 樹皮に残る食害跡

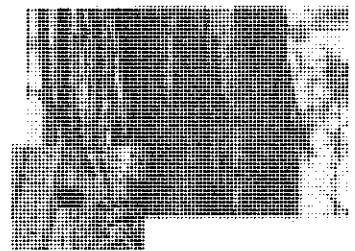


写真8 被害集中木

成虫の羽化した孔(9×5mm)が多数見られる。

作業道散策

1

いつも見慣れている森の中で、不思議なものや面白いものに出会うことがあります。そんなものを話題に、体や頭を少し休めてみませんか。

【赤っこ】

ミズキの切株に鮮やかなオレンジ色の「おかゆ」状のぶよぶよした物がついている。春の森の中で、こんな不思議なものを見ることがある(写真1)。シラカバでも同様



写真1

のものが見られる。これは伐採や枝折れなどによる傷口から流れ出した樹液に酵母菌や他の菌類が繁殖してできるものであることがわかっていく。

時には、幹の途中に同じようなものがついていることもある(写真2)。疑問に思っていたが、最近

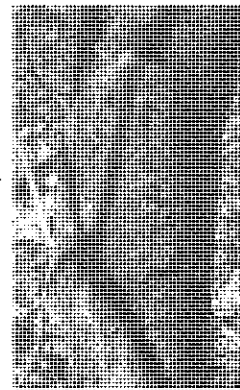


写真2

その疑問が解消した。キツツキの一種であるアオゲラは、冬季、木の幹を突ついてその穴から流出する樹液を飲む(写真3)。その樹液(写真4)で同じことが起きてい

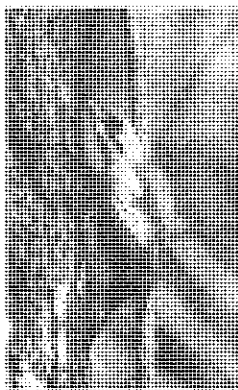


写真3



写真4

たのだ。

滝沢村の方から、これは「赤っこ」と呼ばれ、昔、炭焼きさんや山仕事をする人達が味噌汁に入れて食べたものだ、という話を聞いた。酵母菌がかかっているのであるから、隠れた健康食品かもしれない。

これを何と呼んでいるのか、あ

ちらこちらの方に聞いていたのだ。皆さん頭を捻るだけで、いまだ明快な答えが返ってこない。

皆さんの地方では、これを何と呼んでいますか。食用・薬用などの利用について、あるいは言い伝えなどありましたら是非教えてください。この欄で紹介させていただきます。

冗談欄 禁煙永遠延期(キンエンエイエンエンキ)

回文とは、「トマト」とか「新聞紙」みたいに前から読んでも後ろから読んでも同じ発音で、ある程度意味が通る文章を言い、回文を集めた本もあった。

古くから皆よく考えているものだと感心する。回文を使って文章を作ってみる。

「男性推薦だ」とばかり、「エロアロエ」「好きエキス」を飲み、「よか、たまらん真央、おまんら、またかよ」「夜まこと困るよ」とばかりに期待し、「セクハラはクセ」で「なんて羨(しつ)けい子いいケツしてんな」と言ってみたら、「根のいい奴の股の玉のツ

ヤ、いいのね」と逆にあしらわれ、「ママが私にしたわがまま」から、「去りな、キスが好きなリサ」と強がりをつけては見るが、胸に「ズキ！痛い！傷」が突き刺さり、「プツリとすたれたストリップ」街へ出る。

「コレラ菌、巷に撒く悪魔に玉チン切られコ」されそうに、家に帰って「夜泣くなよ」と自分に言い聞かせている。孫には「預金いくらや薬隠居」とおだてられ、「わしの股の玉の皺」を延ばしながら「男尊損だ」「平成再生へ」と叫んではみるが、「すねて、ふて寝す」。

平成22年4月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約250m³増加、カラマツが約300m³増加、アカマツが約140m³減少し、全体では約390m³増加している。昨年同月と比較すると、スギが約2,920m³増加、カラマツが約400m³減少、アカマツは約1,100m³増加し、全体では約3,640m³増加している。工場別では、ホクヨープライウッドが前月比較で約350m³減少、昨年同月比較では約1,070m³増加、北日本プライウッドは前月比較では410m³減少、昨年同月比較では約2,080m³増加となっている。これら増減の主原因は、工場側の受入調整によると考えられる。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約730m³増加している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約580m³増加、昨年同月より約3,420m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量（案）に対する1か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を8.3%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷実績は、計画数量（案）を0.3~0.8ポイント上回る進捗状況となっている。

(m³, %)

樹種	長級	販売先				計	累計				
		合板用					計	合板用	その他	計	
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	その他	小計			樹種別割合			
スギ	2.0	2,950	2,905	791	6,646	3,249	12,241	6,646	47.3	3,249	12,241
	4.0	1,506	710	130	2,346			2,346			
	計	4,456	3,615	921	8,992			(537)			
カラマツ	2.0	3,738	1,687	610	6,035	411	8,931	6,035	44.8	411	8,931
	4.0	786	1,699		2,484			2,484			
	計	4,524	3,386	610	8,520			(623)			
アカマツ	2.0	1,117	251	10	1,378	0	1,487	1,378	7.8	0	1,487
	4.0	76	22	11	109			109			
	計	1,193	273	21	1,487			(0)			
その他針 広葉樹		8			8	58	66	8	0.0	58	66
合計		10,181	7,273	1,553	19,007	3,718	22,724	19,007	100.0	3,718	22,724
目標達成率								8.6		12.4	9.1
計画数量								220,000		30,000	250,000

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)、[] はストックヤードからの出荷量(内数)

落穂拾い

数日前の地元新聞の紙面に、遠野市の観光スポットの一つである(かっぱ淵)で、行楽客がキュウリを餌にしていた釣りを楽しんでいる写真入の記事が載っていた。一読して、昨今の気の滅入ることにばかりが多く、閉塞感の充満する世間であって、遊び心に満ちた演出・情景とはほえましく感じ入った次第である。ご承知のように、かっぱ(河童)は想像上の動物、古くからの日本の代表的な妖怪である。体は子供の形で、口ばしはとがり、身にうろこや甲羅があり、手足に水かきがある。頭の上に水をたくわえた皿がある。川や沼にすみ、泳ぎがうまく、キュウリが大好物で、相撲好きでもある。筆者が小学生低学年の頃に、子供たちだけで近くの池に水遊びに行こうとすると、大人から「あの池には河童が住んでいて、小さい子供たちを池に引き込み、その子の血を吸ったり、尻の穴から尻子玉を抜いて食べてしまおう」と脅かされた記憶がある。河童は力が強く、大きな馬を引っぱり込んで食ってしまおうという伝説が日本各地にあるという。私たちが子供の頃には、この河童が本当にいるのかどうか半信半疑ながらもちよつと恐ろしい存在であった。それでもこの河童という奴はよく漫画の題材になったり、姿・形にひょうきんな

ところがあり、何ともいえない滑稽感があつて私は嫌いではなかった。

もうひとつの日本における伝説上の怪獣・妖怪に「ぬえ(鵺)」というのがある。この鵺の姿・形はというと、頭はサル、手足はトラ、胴はタヌキ、尾はヘビに、声はトラツグミに似ているという。広辞苑の「ぬえ」の項を見ると、①トラツグミの異称、②源頼政が紫宸殿上で射取ったという伝説上の怪獣。平家物語などに見え、世阿弥作の能(鬼物)にも脚色される、③転じて、正体不明の人物や曖昧な態度をいう、となっている。例えば、曖昧で、得体の知れない人を「鵺的人物」と評したり、掴み所がなく先行きがまったく不透明な経済の動向を「巨大な鵺的経済構造のなせる様相」などと表現されたりする。

新聞の「かっぱ釣り」の記事に触発されて日本古来の二つの妖怪について調べてみたが、筆者が最後にいき着いた連想は、どこかの国の政権の有様が(何とも得体の知れない「鵺的政権」と評されても仕方がないな、ということである。その政権集団のうちの誰が、鵺の頭で、手足で、胴で、尾なのか？人によつて誰を連想するかは差異があるかもしれない。いずれにしても不気味で、曖昧で、得体の知れない政権であることには変わりがないといえよう。